

## 里帰り分娩の小児保健的研究

研究第3部 加藤 忠明・高橋 悦二郎  
 研究第2部 高野 陽・斉藤 幸子・宮崎 叶  
 研究協力者 兼子 和彦(葛飾赤十字産院)  
 藤井 仁(都立築地産院)  
 鈴木 洋(愛育病院)  
 加藤 則子(国立公衆衛生院)

### I はじめに

里帰り分娩とは、本来は妻がその実家に帰って出産することを意味しており、日本では昔から一般的な習慣として定着した様式であった<sup>1)</sup>。しかし、近年、自宅分娩が減少し、施設分娩が99.7%<sup>15)</sup>をしめるようになり、里帰り分娩の概念も少しずつ変化した。すなわち、最近では妻の実家そのものではなく、実家の近くの病院や産院で出産する際に里帰り分娩ということが多くなった。

近年は核家族化<sup>2)</sup>に伴い里帰り分娩が増加し、全国平均で37.8%もが里帰り出産している<sup>3)</sup>。産婦人科領域からは種々の調査が行われ、<sup>4-6)</sup>里帰り分娩についての長所短所が論じられているので、<sup>3-8)</sup>今回、我々は小児保健的視点から調査研究を行った。

里帰りにも2つの方向がある。1つは地方から都会への里帰りであり、もう1つはより頻度の高い都会から地方への里帰りである。今回の調査では、前者の代表として、住所地が他地域にあり東京に里帰りして出産した里帰り分娩(以下、里帰り東京出産群と略す)、後者の代表として、東京付近に自宅があり住所地以外の他道府県で出産した里帰り分娩(以下、里帰り地方出産群と略す)を対象とした。それらについてアンケート方式による里帰り分娩の実態調査を行い、現在の問題点を検討した。

### II 対象と方法

里帰り東京出産群に関しては、東京都内にある愛育病院、葛飾赤十字産院、築地産院で1983年1月～1984年7月に里帰り分娩した母親にアンケートを郵送した。アンケートの内容は末尾に示す。約6,600の分娩中、病院から2～3時間以上離れた所に自宅がある363例に発送し、

住所変更、非里帰り分娩を除く157例から有効回答を得、これを里帰り東京出産群とした。

里帰り地方出産群に関しては、東京都江東区深川保健所、川崎市川崎保健所及び川崎市多摩保健所の乳児健診に1983年10月に来所した母親にアンケート調査を依頼した。3か月健診なしツベルクリン・BCGの予防接種を目的として来所した親子を対象とした。自宅のある地域以外の他道府県の実家など縁故者のいる所で出産した場合に、前記と同じ調査用紙を配布した。回収された里帰り地方出産群は145例であった。

里帰り分娩群は、東京出産群157例と地方出産群145例の合計302例であった。コントロールとしての非里帰り分娩群は、上記3保健所に来所した親子を対象とし、非里帰り用アンケート用紙(本文末尾参照)で調査した。東京付近で出産したこの非里帰り分娩群は380例であった。

### III 結果と考察

以下の表に主な結果を示す。表中括弧に入っていない数字が、里帰り群についての%ないし例数であり、括弧内の数字が、非里帰り群の結果である。

#### 1. 保健所別対象例

表1に保健所別の対象例数を示す。これから里帰りし

表1 保健所別対象例数

保健所	里帰り地方 出産群	非里帰り群
深川	64例	(184例)
多摩	72	(70)
川崎	9	(126)
計	145	(380)

た割合を計算すると、深川保健所で25.8%、多摩保健所で50.7%、川崎保健所で6.7%と、各保健所で非常に異なっていた。里帰り率が地域により異なることは他の報告<sup>4)</sup>とも一致しており、主にそれぞれの地域の社会的背景や家庭要因などの差によると考えられる。

2. 住所地と里帰り場所

表2に里帰り東京出産群の現住所と、里帰り地方出産群の里帰り場所を示す。前者は、実家が東京にある場合の自宅の住所を示し、後者は、自宅が東京・川崎にある場合の実家の場所を主に示している。両者とも関東地方にあることが最も多かったが、実家が東京にある場合の自宅は近畿地方、自宅が東京・川崎にある場合の実家は東北地方・九州地方が次に多かった。

表2 現住所(里帰り東京出産群)と里帰り場所(里帰り地方出産群)

地 方	東京出産群	地方出産群
北 海 道	1.9%	4.8%
東 北	3.8	19.3
関 東	45.4	35.2
甲 信 越	1.3	6.2
東 海・北 陸	10.2	9.7
近 畿	15.9	4.8
中 国	2.5	4.1
四 国	0.6	1.4
九 州・沖 縄	0.6	11.7
N. A. (無回答)	17.8	2.8

3. 里帰りの理由

表3に里帰り分娩の理由を示す。他の援助者がいないという人手の問題や出産前後の不安を訴える例が多かった。里帰りした家は、母親の実家が92.3%、父親の実家が5.0%、兄弟の家が2.0%であった。

妊娠・出産・育児に関して身体的精神的な助力助言をする人をデューラといい、デューラが妊婦や母親の側に

表3 里帰り分娩をした理由(複数回答あり)

理 由	東京出産群	地方出産群
人手の問題	54.1%	58.6%
出産前後の不安	57.3	28.3
里帰りが習慣	11.5	14.5
人のすすめ	1.9	0
特に理由なし	2.5	2.1
他(出張、転勤等)	5.7	4.8

いると妊娠出産の不安が抑えられ、難産が減り、育児ノイローゼの予防になるといわれている(デューラ効果)<sup>9)</sup>。戦前の日本ではデューラの役を産婆や近所のコミュニティーがになっていたが、最近では核家族・施設分娩とも増加し、デューラの役割をはたす人をどのように見出すかは問題となっている<sup>10)</sup>。それを父親に頼るなら、夫立会い分娩や父親の産休制度の拡充が望ましいが、祖母などに頼る場合に里帰り分娩になると考えられる。

4. 里帰りの期間

里帰り分娩を決めた時期については、妊娠11週までが66.2%(東京出産群)、53.2%(地方出産群)、23週までが89.2%(東京出産群)、79.1%(地方出産群)、であり、ことに東京出産群では、妊娠初期までに里帰りを決めていた割合が高かった。

表4に実際に里帰りした時期を示すが、これは出産予定日の1カ月前が多かった。里帰り先から自宅に戻った時期を表5に示すが、出産後1~2カ月で戻ることが多かった。

表4 里帰りした時期

妊 娠 回 数	東京出産群	地方出産群
11 週 まで	0.6%	1.4%
12 ~ 23 週	1.3	2.8
24 ~ 31 週	10.2	4.8
32 ~ 35 週	53.5	42.7
36 週 以後	32.5	41.4
N. A.	1.9	6.9

表5 自宅に戻った時期

出 産 後 週 数 又 は 月 数	東京出産群	地方出産群
2 週 以 内	1.9%	2.8%
2 ~ 3 週	7.0	6.2
4 ~ 5 週	49.8	42.7
6 ~ 8 週	21.0	22.8
2 カ 月	14.0	16.6
3 カ 月	2.5	4.1
4 カ 月 以後	1.9	1.4
N. A.	1.9	3.4

それらの時期は他の報告<sup>4,5)</sup>ともほぼ一致している。妊娠・出産・新生児管理を少しでも一貫して同じ病院で行なうため、また、妊婦や新生児の自宅と実家間の長時間の移動による負担を少しでも防ぐ意味では、里帰り期

間は、長い方が良いであろう。しかし、新しい家族の一員を迎える出産前後に夫婦が別離し、父親としての自覚が育ちにくいなどの欠点を考えれば、逆に短い方が良いであろう。それらの折中点で里帰りする時期や自宅に戻る時期が決められるのが望ましい。里帰り時期の相違と、母児の状態、妊娠中の問題、出産状態との関連性は、今回は見出されなかった。

5. 出産場所の選定理由

表6に出産場所を選んだ理由を示す。評判が良い、里帰りの家から近いという理由が多かった。地方と比べ東京に里帰りする場合は、評判が良い・大きな病院で安心という割合が高く、少数例ながら、医師の紹介、病院が母乳主義だからという理由がみられたが、これらは、都内の比較的大きな病院での調査結果のためであろう。

表6 出産場所の選定理由(複数回答あり)

理 由	東京出産群	地方出産群
評判が良い, 安心	72.0%	44.1%
里帰りの家から近い	49.7	47.6
お里で決めていた	7.6	12.4
医師の紹介	4.5	0.7
他に出産場所がない	0.6	4.1
他(前回出産, 母乳主義等)	7.0	6.2
理由なし	0	1.4

6. 里帰り分娩について施設の反応

妊娠経過中、里帰り分娩について妊婦健診を行なっていた病産院の賛否を表7に示す。比較的多くは賛成であり、反対は少なかった。産科学的・社会的、また、親子関係の点などから、里帰り分娩は好ましくないといわれているが<sup>3-8)</sup>今回の調査ではその考え方が一般的ではないとも考えられる。

表7 里帰り分娩について施設の反応

反 応	東京出産群	地方出産群
すぐに賛成	60.5%	61.3%
しぶしぶ賛成	4.5	10.4
反対	2.5	2.8
他(特になし, 話しせず等)	20.4	14.5
N.A.(出産施設で妊婦健診等)	12.1	11.0

その施設で、里帰りについて指導された率は約半数のみで、その内容は、旅行の注意、その後の健診について、帰宅時のことが主であり、出産や新生児のことについては少なかった。母子健康手帳や紹介状を通して妊娠経過

を出産施設へ伝えることもより多く望まれる。

7. 妊娠中の問題の解決法

妊娠中心記事があったと答えたものは、里帰り東京出産群55.8%、地方出産群55.4%、非里帰り群56.6%であった。妊娠中の困ったことに対する解決方法について表8に示す。医師に相談、自分の母に相談、書物からの知識が多かったが、非里帰り群と比較して里帰り群では、医師に相談する率が低く、自分の母に相談したり書物を読む等が高かった。里帰り分娩を産科領域の難民とする見方<sup>4,6)</sup>もあるが、それぞれの地域の産科医療をより充実させ、里帰り分娩の場合も気軽に医師に相談できるような体制が望まれる。

表8 妊娠中の問題の解決法(複数回答あり)

解 決 法	里 帰 り 東京出産群	里 帰 り 地方出産群	非里帰り群
医師に相談	54.9%	45.8%	(60.0%)
助産婦	4.9	11.1	(6.8)
保健婦	7.3	2.8	(2.4)
自分の母	45.1	52.8	(30.7)
主人の母	6.1	5.6	(9.3)
兄弟姉妹	14.6	12.5	(14.1)
友人・知人・近所の人	28.0	23.6	(25.9)
電話相談	4.9	5.6	(1.5)
薬 局	0	4.2	(0)
書 物	34.1	43.1	(14.1)
そ の 他	8.5	5.6	(7.8)

8. 出産状態

表9に分娩形式を示す。非里帰り群と比較して里帰り群では、正常産がやや多く、帝王切開( $p < 0.005$ ,  $X^2 = 13.11 > 7.88$ )や骨盤位が少ない傾向であった。妊娠37週未満の早産の率は、非里帰り群4.3%に対し里帰り群3.5%、低出生体重児の割合は、非里帰り群6.9%に対し里帰り群5.3%であった。これらは、妊娠中に異常がある場合は里帰りしにくい傾向を示している。「里帰り

表9 分娩形式

出 産	里 帰 り 東京出産群	里 帰 り 地方出産群	非里帰り群
正 常 産	84.7%	86.2%	(81.0%)
難 産	8.3	6.9	(4.5)
帝王切開	1.9	3.4	(9.7)
骨 盤 位	1.9	2.8	(3.2)
不 明	0.6	0.7	(0.5)
N. A.	2.6	0	(1.1)

分娩についての提言<sup>11)</sup>にある程度はそつたものと考えられる。

### 9. 新生児の栄養法

病産院に入院中の新生児の栄養法を表10に、その施設で母親に相談なく人工乳を与えられた割合を表11に、退院時に母乳だけで育てる自信がついた率を表12に示す。入院中の栄養法では、同じ里帰り群の中でも、東京出産群と地方出産群との間で明らかな差が認められ、都内の大きな病院で出産する場合に母乳栄養が多くみられた ( $p < 0.005$ ,  $X^2 = 50.23 > 10.60$ )。入院中の施設で知らないうちに人工乳を与えられたと答えた母親も、里帰り地方出産群と里帰り東京出産群で差が認められ ( $p < 0.005$ ,  $X^2 = 24.32 > 7.88$ )、結果として退院時に母乳栄養の自信のついた割合は里帰り東京出産群が最も高かった ( $p < 0.005$ ,  $X^2 = 11.80 > 7.88$ )。地方に里帰りした施設の方が、人手不足のせいか母乳哺育に対する指導や教育が少ない可能性が考えられる。

表10 入院中の新生児の栄養法

栄養法	里帰り 東京出産群	里帰り 地方出産群	非里帰り群
母乳だけ	35.0%	5.5%	(17.1%)
母乳と糖液	35.7	11.7	(18.7)
母乳と もらい乳	4.5	0.7	(0.5)
母乳と人工乳	22.9	71.7	(57.0)
人工乳だけ	0.6	9.7	(5.3)
不明	1.3	0	(1.1)
N. A.	0	0.7	(0.3)

表11 無断で人工乳を与えられたか

	里帰り 東京出産群	里帰り 地方出産群	非里帰り群
なし	76.4%	46.2%	(59.7%)
あり	8.3	26.2	(16.6)
不明	15.3	21.4	(17.9)
N. A.	0	6.2	(5.8)

表12 退院時の母乳栄養の自信

	里帰り 東京出産群	里帰り 地方出産群	非里帰り群
あり	49.7%	26.2%	(35.5%)
なし	26.1	36.5	(30.0)
不明	23.6	34.5	(33.4)
N. A.	0.6	2.8	(1.1)

### 10. 自宅に戻ることの指導

自宅に戻ることについて入院中に指導のあった割合は、東京出産群 36.8%，地方出産群 39.2%と低率であったので、より多くの指導が望まれる。指導があった場合の内容は、母親のこと、乳児のこと、母乳のこと、育児一般、旅行についてと多岐にわたっていた。

### 11. 家族の生活の場

里帰り期間中の家族の生活の場に関して表13に示す。父親は仕事のため自宅に残ることが最も多かった。上の子がいる場合は、母親といっしょに里帰りする率が高くなり、乳児院や知人宅にあずけられる例は1例もなかった。

表13 家族の生活の場

場 所	父 親		上 の 子	
	東京 出産群	地方 出産群	東京 出産群	地方 出産群
自 宅	78.2%	82.1%	4.5%	3.4%
父親の実家	12.8	11.7	4.5	6.9
里 帰 り	7.7	4.8	91.0	88.0
他 (親類 など)	1.3	1.4	0	1.7

### 12. 乳児健診

退院後帰宅までの乳児健診の受診場所を表14に示す。出産場所で健診を受けたものが高率であり、帰宅までに健診を受診しなかった例は、全例帰宅後に乳児健診を受診していた。

表14 退院後帰宅までの乳児健診 (複数回答あり)

受 診 場 所	東京出産群	地方出産群
出 産 場 所	91.1%	87.6%
訪 問 指 導	3.8	4.1
保 健 所	0	0
他 の 場 所	3.1	3.4
受 診 せ ず	7.0	8.3

里帰り出産の場合は、新生児訪問指導の実施上問題点が指摘されているが、<sup>12)</sup> 出生連絡票を住所地と出生場所との両者の保健所に提出すること等により、新生児訪問指導が実施できるような体制が望まれる。

### 13. 母児の健康状態

帰宅後、母親の健康状態は特に問題なしと答えたものが東京出産群 84.1%，地方出産群 86.7%，乳児の健康状態問題なしが東京出産群 95.5%，地方出産群 93.1%であり、多くの母児の健康状態は問題がなかった。しかし、

妊娠中里帰り分娩を施設に反対された例では、母児の健康に問題ありとする割合が高かった。妊娠中に問題のある合併症（切迫流産や妊娠中毒症など）を伴う場合は、里帰り分娩を避けるべきであろう<sup>13)</sup>

14. 乳児についての心配事

乳児について困ったことがあると答えたものは、里帰り東京出産群 39.5%，地方出産群 54.5%，非里帰り群 65.5%で、里帰り群の方が少なかった ( $p < 0.005$ ,  $X^2 = 21.80 > 7.88$ )。心配事の内容は、湿疹、哺乳力低下、便秘、体重増加不良、嘔吐などであった。その解決法を表15に示すが、医師に相談する割合が最も高かった。非里帰り群と比較し里帰り群では、自分の母や育児書に頼る率が高く、妊娠中の問題の解決法と同じ傾向であった。10年前の調査<sup>14)</sup>と比較すると、保健婦に相談する割合が増加していた。

表15 乳児の問題の解決法（複数回答あり）

解決法	里帰り 東京出産群	里帰り 地方出産群	非里帰り群
医師に相談	67.7%	50.6%	(61.8%)
保健婦	14.5	20.3	(14.5)
自分の母	27.4	25.3	(12.4)
主人の母	11.3	7.6	(5.2)
兄弟姉妹	3.2	7.6	(5.2)
友人・知人・ 近所の人	17.7	21.5	(12.9)
電話相談	4.8	6.3	(2.0)
薬局	0	1.3	(2.0)
育児書	24.2	22.8	(12.4)
他(デパート 等)	1.6	0	(3.2)
相談せず	6.6	12.7	(5.2)

15. 里帰り分娩についての家族の考え方

里帰り分娩についての家族の賛否を表16に示す。

里帰り東京出産群も里帰り地方出産群もほぼ同じ結果であった。父親も、父親の両親も、母自身の両親も賛成したと答えた母親が多かった。里帰りは、夫婦関係、父

表16 里帰り分娩の賛否

	主 人	主人の両親	自分の両親
賛 成	83.1%	75.5%	93.4%
しかたなし	14.2	9.3	4.3
反 対	0.3	0.7	0.3
不 明	0.7	11.9	0.7
N. A.	1.7	2.6	1.3

子関係からみると好ましくはないが、<sup>6)</sup>父親は、出産に対する不安があったり、安心して仕事をしたいという理由で、里帰り賛成が多いと考えられる。

里帰り分娩についての母親自身の印象を表17に示す。東京出産群と地方出産群で大差はなかった。母親自身にとって良いと思う率は90%近くであったが、児に良いはやや低下し、父親にとっては良くないと思う割合の方がやや高かった。里帰り分娩の際自宅に残っている父親は、可能な範囲で産休や有給休暇をとって母子に会いに実家に行くのが望ましいと考えられる。

表17 里帰り分娩の母親の印象

	自分に	乳児に	主人に
良 い	88.4%	68.9%	34.1%
悪 い	4.3	12.3	36.4
不 明	5.3	16.2	24.5
N. A.	2.0	2.6	5.0

次の出産における里帰り希望の有無を表18に示す。多分里帰りするが最も多く、しないは少なかった。以上の結果から、里帰り分娩に対する家族の考え方は、比較的肯定的にとらえている母親が多いことがわかる。

表18 次の出産の時里帰り分娩するか

	東京出産群	地方出産群
必 ず する	27.4%	18.6%
多 分 する	39.5	44.2
し ない	10.2	10.3
不 明	17.2	20.7
N. A.	5.7	6.2

16. 里帰り先と自宅の住宅事情

里帰りした家の建物を表19、自宅の建物を表20に示す。里帰り先は一戸建が多く、自宅はアパートかマンションが比較的多かった。表3で里帰り分娩の理由に住宅事情をあげた母親はいなかったが、里帰り地方出産群ではこ

表19 里帰り先の住宅事情

住 宅	東京出産群	地方出産群
一 戸 建	73.9%	91.0%
団 地	8.3	2.1
マ ン シ ョ ン	10.8	0.7
ア パ ー ト	2.5	0.7
N. A.	4.5	5.5

表20 自宅の住宅事情

住 宅	里 帰 り 東京出産群	里 帰 り 地方出産群	非里帰り群
一 戸 建	43.3 %	10.3 %	(26.6 %)
団 地	9.6	10.3	( 9.7 )
マンション	16.6	25.6	(27.9 )
ア パ ー ト	10.8	35.9	(22.1 )
N. A.	19.7	17.9	(13.7 )

とに一戸建が少なく、自宅が狭くて手伝ってくれる人を自宅によべないという理由で里帰りする人も多いと考えられる。

#### 17. 家族構成

表21に自宅の兄弟数を示す。里帰り群の自宅には、子ども1人の割合が高かった ( $p < 0.005$ ,  $X^2 = 19.32 > 7.88$ )。非里帰り群で里帰りしない理由の中で最も多かったのは、上に子どもがいるからという理由 (37.1%) であった。

表21 自宅の家族構成

子 ども 数	里 帰 り 東京出産群	里 帰 り 地方出産群	非里帰り群
1 人	48.4 %	43.4 %	(31.6 %)
2 人	36.3	26.9	(32.3 )
3 人	7.7	16.6	(19.2 )
4 人 以上	1.9	9.0	(16.6 )
N. A.	5.7	4.1	( 0.3 )

祖父母との同居の有無では、里帰り群には同居なしの割合が東京出産群84.2%、地方出産群91.7%と高く (非里帰り群は78.5%)、同居している場合は全例父親の両親との同居であった。

#### IV ま と め

里帰り分娩自体について母親は肯定的な考え方が多く、また、非里帰り群と比較しても母児の異常は多くなかった。里帰り分娩については、里帰りの往復の負担、妊娠出産を一貫して同じ病院で経過観察できない、父子関係が育ちにくいなどの欠点はあるが、妊娠出産に関して身体的かつ精神的に助力を得るため祖母などにデューラ効果を求めやすいという利点もあるので、里帰り分娩自身は現在の日本の社会ではやむをえないことがある。しか

し、地方に里帰りした場合、その出産施設で、母乳の指導を受けたり、困ったことに対して医師から指導を受ける率が低い傾向であった。里帰り分娩に関して施設側の反対がなければ、里帰りすること自身には問題は少ないが、里帰り分娩に対する指導を母親に行い、母親が不安をもたないような指導方針の確立が望まれる。

本研究の要旨は第31回日本小児保健学会、第3回東京母性衛生学会にて発表した。本研究は、厚生省「母子保健システムの分析、評価、改善に関する研究」班の研究費による。

#### 文 献

- 1) 真田幸一：ふえてきた里帰り分娩，愛育，46(2)：8～11，1981。
- 2) 高野陽，他：家族形態と育児に関する研究，日本総合愛育研究所紀要，第13集：67～72，1977。
- 3) 本多洋：里帰り分娩の危険度を考える，愛育，46(2)：12～17，1981。
- 4) 品川信良，他：里帰り分娩，産婦人科 MOOK，第12巻：103～111，1980。
- 5) 野村雪光，他：里帰り分娩—長途・長時間の移動に伴う異常について—。助産婦雑誌，34(3)：38～41，1980。
- 6) 野村雪光，他：里帰り分娩における親子関係，周産期医学，13(12)：2176～2179，1983。
- 7) 品川信良：里帰り分娩の是非，産婦人科の実際，29(3)：213～218，1980。
- 8) 日母調査「里帰り分娩の現況とその対策について」，日母医報，35(6)：14～15，1983。
- 9) 加藤忠明：母子相互作用について，保健の科学，26(12)：822～825，1984。
- 10) 雨森良産：周産期の母子相互作用，からだの科学，増刊16，168～175，1984。
- 11) 内藤寿七郎：里帰り分娩についての提言，日母医報，35(6)：15，1983。
- 12) 高野陽，他：新生児期の保健指導のあり方に関する研究，母子保健システムの充実に関する研究報告書，昭和58年度：79～81，1983。
- 13) 山田恵三：ワークショップ「里帰り分娩」，第3回東京母性衛生学会学術集会，1985。
- 14) 内藤寿七郎，他：社会変動に伴う住宅団地生活が母子の健康に及ぼす影響に関する研究，日本総合愛育研究所紀要，第7集：73～118，1971。
- 15) 厚生統計協会：昭和58年人口動態統計，中巻：112～117，1983。

Abstract

Study on the Delivery around one's Old Home

by

Tadaaki KATO, Etsujiro TAKAHASHI,

Akira TAKANO, Sachiko SAITO,

Kano MIYAZAKI

Kazuhiko KANEKO, Hitoshi FUJII,

Yo SUZUKI, and Noriko KATO

Japanese mothers deliver more and more (now 37.8%) around their old home because of nuclear family. We obtained the information through questionnaire at 3 hospitals & 3 public health centers around Tokyo. When they were in pregnancy they made their call at their old home in 32-40 weeks of gestational age (88.9%), gave birth at the hospitals around there, and returned to their own home in 4-8 weeks after delivery (70.8%). Many mothers who delivered around their old home agreed their way of delivery. Compared with control, there are less abnormality in the mother & infant. About the delivery around one's old home it is argued about the risk of round trip between one's own and old home, about the demerit of poor father-infant relationship, and about the non-consistent hospital care. But because it is ease to get doula effect from one's mother etc., some Japanese mothers inevitably deliver around their old home. If the doctor who care the pregnant women agree the delivery around their old home, we consider it has few problem. But we hope they have more guidance about breast feeding, returning to their own home, and other troubles at the hospital in which they deliver.

里帰り分娩用アンケート

お願い！ 私達はお母さんと赤ちゃんの健康生活に役立つ援助をしたいと考えており、いろいろの問題点をお母さん方から聞かせていただきたいので、ご協力をお願いします。

なお、この内容については、関係者以外の目にはふれません。

厚生省心身障害研究「現行母子保健システム」研究班

里帰り分べんについてお聞かせ下さい。(ここでいう「里帰り」とは、お産のために地方の実家や親類に帰ったことをいいます)

「里帰り」先の住所

都・道・府・県 市・郡 町・村  
 その家は、あなたの 1. 実家 2. ご主人の実家 3. きょうだいの家 4. その他 ( )

A 「里帰り分べん」をした理由は次のどれですか？あてはまるものに○をつけて下さい。

1. 手伝ってくれる人がいなかった 2. 住宅事情で 3. お産の前後が不安だった  
 4. 里帰りの習慣 5. ほかの人がすすめた 6. 特に理由なし 7. 他 ( )

B 「里帰り」を決めた時期はいつですか？

1. 妊娠11週（妊娠第3か月末）まで 2. 妊娠23週（妊娠第6か月末）まで  
 3. 妊娠31週（妊娠第8か月末）まで 4. 妊娠35週（妊娠第9か月末）まで  
 5. 妊娠36週（妊娠第10か月）以後

C 「里帰り」の期間

実際に里帰りした時期 妊娠 ( ) 週または ( ) か月  
 自宅に帰って来た時期 産後 ( ) 日目

D お産をした場所を選んだ理由は次のどれですか？あてはまるものに○をつけて下さい。

1. 「里帰り」の家から近い 2. その地域ではそこしかない 3. 評判がいい  
 4. 「里帰り」前に診てもらっていた施設の紹介 5. お里で決めていた 6. 理由なし  
 7. その他 ( )

E 妊娠中のことについておたずねします。

1. 「里帰り分べん」のことについて、健診を受けていた施設の反応は？

1. すぐに賛成した 2. ししぶ賛成した 3. 反対した 4. その他 ( )

2. 「里帰り」のための指導をしてくれましたか？

1. してくれない 2. 忘れた 3. してくれた……その内容は？ a 旅行の注意 b その後の健診  
 c お産のこと d 赤ちゃんのこと  
 e 帰宅のこと f その他

4. その他 ( )

3. 困ったこと、不安だったことがありましたか？それをどのように解決しましたか？

1. 「里帰り」する前にあった 2. 「里帰り」後にあった 3. どちらにもあった  
 4. どちらにもなかった 5. 忘れた 6. その他 ( )

※ その解決法は？

1. 医師に相談 2. 助産婦に相談 3. 保健婦に相談  
 4. あなたのお母さん 5. ご主人のお母さん 6. きょうだい  
 7. 薬局 8. デパート 9. 電話相談 10. 友人・知人・近所の人

11 妊娠・お産の本 12 その他 ( )

F お産・赤ちゃんのことにしておたずねします。

1. お産の状態はどうか？（母子健康手帳のとおり記入下さい。）
  1. 正常
  2. 難産
  3. 帝王切開
  4. 骨盤位（さかご）
  5. わからない
2. 妊娠期間 満 ( ) 週（第 月）
3. 赤ちゃんの生まれた時の体重 ( ) g
4. 特別の状態
  1. なし
  2. 仮死
  3. その他 ( )
5. 入院中の赤ちゃんの栄養法
  1. 母乳だけ
  2. 母乳と糖液
  3. 母乳とミルク
  4. もらい乳
  5. 母乳ともらい乳
  6. ミルクだけ
  7. わからない
6. お母さんの知らないうちにミルクが与えられたようなことはありましたか？
  1. ない
  2. あった ( ) 日目
  3. わからない
7. 入院中に母乳だけで育てる自信ができましたか？
  1. ついた
  2. つかない
  3. はっきりしなかった

G 退院する時、遠方（自宅）に帰ることについての指導がありましたか？

1. なかった
2. 忘れた
3. してくれた……その内容は？
 

a お母さんのこと	b 赤ちゃんのこと
c 母乳のこと	d 育児のこと
e 旅行のこと	f その他 ( )

H 「里帰り」とご家族のことにしておたずねします。

1. 「里帰り」期間中のご家族の主な生活の場所は？
 

◎ご主人は……	1. 自宅	2. ご主人の自宅	3. 一緒に「里帰り」	4. その他の場所
◎上のお子さんは（いる家庭のみ）……	1. 自宅	2. ご主人の実家	3. 一緒に「里帰り」	
	4. 他の親類	5. 知人宅	6. 乳児院	7. その他
2. 「里帰り」についての賛否
 

◎ご主人は……	1. 賛成	2. 反対	3. わからない	4. 仕方なし
◎ご主人の父母は……	1. 賛成	2. 反対	3. わからない	4. 仕方なし
◎あなたの父母は……	1. 賛成	2. 反対	3. わからない	4. 仕方なし

I 赤ちゃんの健診についておたずねします。

1. 退院後帰宅するまでに「赤ちゃんの健診」を受けましたか？
  1. 受けなかった
  2. 生まれた所で受けた
  3. 他の場所で受けた
  4. 保健所受診
  5. 訪問指導を受けた
  6. その他 ( )
2. 帰宅後今日の健診までに「赤ちゃんの健診」を受けましたか？
  1. 受けなかった
  2. 病院や診療所で受けた
  3. 保健所で受けた
  4. 訪問指導

J 帰宅後のお母さんと赤ちゃんの状態をおたずねします。

1. お母さんの状態は？
  1. 特に問題なし
  2. 医療を受ける程ではないが余りよくない
  3. 病気がち
  4. その他 ( )
2. 赤ちゃんの状態は？
  1. 特に問題なし
  2. 医療を受ける程ではないが余りよくない
  3. 病気がち
  4. その他 ( )





